



## 親子で楽しんだ年少さんの劇遊び

2月に入って、年少の子どもたちが、日替わりで劇の衣装を身に付け、絵本の登場人物になり切って、保育室や廊下を動き回っていました。今も継続中です。

らっこ組では、桃太郎が鉢巻をしてお供の犬や猿は「わんわん」「きゃっきゃつ」と鳴きながら、幟を持って、教室やベランダを走っています。

ぱんだ組の廊下では「3時のお茶に来てください」と先生や友達に声を掛け、お茶に誘っていました。

そして、こあら組では玄関前の廊下までやってきて段ボールでこしらえたミキサー車でアイスクリームを配って遊んでいました。

年少さんは、動物の耳や尻尾を一つ付けただけで、その動物になりきって、鳴きまねをしたり、動きの物まねをしたりして遊びます。動物の衣装を身に付け、仕草を見ていると、可愛いですね。動物の動きについては、きっと、動物園に行った折にしっかり観察しているのでしょう。

そして、15日(土)に、子どもの意欲を大切にしながら、年少の劇遊びを実施しました。新型コロナウイルスの心配はありましたが、子どもたちが楽しみにしている遊びです。中止や延期も考えましたが、これまで子どもたちが楽しんできたこと、子どもたちのモチベーションを大切にしたいこと、ぜひ、保護者の方に、子どもが楽しんでいる姿を見ていただきたいことなどから、万全の備えをして実施しました。

さて、年少劇遊びのねらいは、友達や先生と一緒に絵本の登場人物を、動きや言葉で表現することや歌うことを楽しむこと。また、今まで遊んできたわらべ歌をお家の人やクラスの皆で楽しむこととしています。皆さん、ご覧になっていかがでしたか？

最初は、ぱんだ組の「3じのおやつにきてください」です。いろいろな動物の役をした子どもたちが、順番に、それぞれの持ち場に分かれて登場するときは緊張した面持ちでしたが、持ち場に着いて、砂糖を運んだり、草を食べたり、木の実を食べたりしているうちに緊張感が解け、お茶のお誘いが来たときは、みんな笑顔になっていました。



頭に動物の

衣装を身に付けた子どもたちは可愛かったですね。そして、「みどりのみどり」の正体がカエルさんだと分かって保護者の方から笑みがこぼれ、会場全体が、和やかな雰囲気になりました。



2番目はらっこ組の桃太郎です。日本昔話で有名なお話です。お婆さん役は二人いたのに、お爺さん役が一人もいなくても劇遊びとして成立するところが子どもらしいところです。年少さんは当日、役が決まるということですから、担任が、無理にお爺さん役を作らず、子どもの気持ちを尊重したところが本園の良さでもあります。お婆さん二人が、桃太郎を鬼が島に送り出し、戻ってくるまで、ずっと洗濯し、折りたたんでいっているところは、子どもなりに、役に、はまっていたということです。

最後は、こあら組の「ゆうちゃんのみきさーしゃ」です。ゆうちゃんは、ミキサー車に、ミツバチ、ニワトリ、牛、猿、白熊君たちが持っている美味しさの素を提供してもらい甘いアイスクリームを作りました。

最後は、こあら組の「ゆうちゃんのみきさーしゃ」です。

ゆうちゃんは、ミキサー車に、ミツバチ、ニワトリ、牛、猿、白熊君たちが持っている美味しさの素を提供してもらい甘いアイスクリームを作りました。



子どもの絵本は、現実の社会では考えられないことを空想化、擬人化して話の筋が出来上がっています。子どもたちは、純粹ですから、何の疑問も感じずに、その役になり切って演じますから、生き生きとしています。さて、動物たちの協力を得て出来上がったゆうちゃんのアイスクリームを提供された保護者の皆さん、味はいかがでしたか？これまでのどのアイスクリームよりも美味しかったことだと思います。

遊戯室のワンフロアを舞台として楽しんできた年少さんも、来年は、劇のスタイルをとって表現をするようになります。これからの成長が楽しみです。

12月から始まった3学年の劇遊びや発表会も無事に終了することができました。来年度は、行政指導による働き方改革もあって、劇の発表会を同一月にするか、分散するか、検討しなければいけません。しかし、劇遊びや劇の発表会がなくなることはありませんから、ご心配なく。

--	--